

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第558回北九州地区小児科医会7月例会

日時：2019年7月20日（土）17:20～

場所：クラウンパレス小倉 3Fダイヤモンドホール

演題1：アフリカにおける災害時緊急医療支援の経験と、活動に参加する意義 ～インバウンド医療時代を踏まえて～

演者：JCHO九州病院 小児科 米田 哲 先生

演題2：当院で経験した新生児 乳児消化管アレルギーについての検討

演者：産業医科大学 小児科 田中 健太郎 先生

特別講演：「給食でのアレルギー対策、
気道感染と気管支喘息」

演者：大分大学客員教授、中津市立中津市民病院
副院長 是松 聖悟 先生

第559回北九州地区小児科医会9月例会

日時：2019年9月19日（木）19:30～20:30

場所：北九州市小倉医師会館 4階

特別講演：「そだちと自己肯定感～小児科医の役割～」

演者：糸島こどもとおとなのクリニック
児童精神科 笠原 亜希子 先生

産業医科大学カンファランス・セミナー

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス（終了）

日時：2019年7月8日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題：日常診療で最もよく遭遇する免疫異常である
“低ガンマグロブリン血症”の見つけ方、
原因検索および治療の仕方

演者：産業医科大学小児科 小川 将人 先生、保科 隆之 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2019年7月25日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題：最新のがん免疫療法
- 「CAR-T細胞療法」の現状と今後の展望-

演者：産業医科大学小児科 浅井 完 先生、樋口 尚子 先生
本田 裕子 先生

※8月の産業医科大学カンファランスはお休みです。

その他講演会などのご案内

第423回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2019年7月25日（木）19:00～

場所：ホテルクラウンパレス小倉

演題：「重症心身障害・発達障害の臨床における小児科の
役割～総合療育センター小児科の現状～」

演者：北九州市立総合療育センター 小児科 友納 優子 先生

八幡小児科医会・産婦人科医会合同学術講演会

日時：2019年7月23日（火）19:00～

場所：千草ホテル 光琳の間

演題：「日本と世界におけるHPVワクチンの現状」

演者：久留米大学医学部 産婦人科学講座
主任教授 牛嶋 公生 先生

第74回乳児股関節エコーセミナー

日時：2019年7月20日（土）、21日（日）

場所：北九州市立総合療育センター

予め申し込みが必要です。（定員20名まで）

申込みは：seikeiofficial2019@kitaq-src.jpまで

【申込記載事項】

①氏名（ふりがな） ②生年月日 ③ E mail ④勤務先⑤職種
⑥連絡先（郵便番号、住所、電話、FAX）

メールの題名に「乳児股関節エコーセミナー申し込み」と記載して下さい。

●整形外科医のみならず、小児科医、検査技師の方も
ご参加可能です。

●当セミナーは日本整形外科学会教育研修講演として
完全受講4単位が認められています。
（受講の際にはIC会員カードが必要です。）

●受講料は3万円。懇親会費5千円（希望者のみ）。

保険診療メモ

夜間・休日の急患診療所における診療について

勤務医、開業医を問わず日々の診療でお忙しいにもかかわらず、夜間・休日に救急医療を目的にした医療機関（以下、急患診療所と略）に出務されている先生方には心から感謝申し上げます。慣れない環境で、意思疎通が充分とはいえないスタッフとともに、日常の診療とはやや異なる疾患について、それもほとんどが「一見（いちげん）」という患者さんを診察するご苦労は一般の方々には到底理解できるものではありません。

そのような先生方をお願いするのは心苦しいのですが、日常診療の場所に比し、急患診療所では保険審査上の査定が多くなっています。施設が大病院に併設している場合には、その病院の常勤の先生方や事務職の方が不備を補っておられるように、夜間・休日のみ開院し常勤医のいない急患センターなどに比べると査定割合が少ないように感じます。出務される先生方には施設に迷惑が掛からないようご配慮をお願いいたします。また、急患診療所を運営している方々は適正な保険請求にご協力ください。

出務される先生方へ；

(1) カルテは可能な限りきちんと記載してください。

請求内容について疑義がある場合、返戻して詳細をお聞きすることがあります。カルテの記載が不十分なために整合性がとれず、行われた診療行為が請求不能や査定となることがあります。また、病名も過不足なく記入してください。外傷や湿疹は部位・範囲を、中耳炎や肘内障などは左右の記載も忘れずに。

(2) 数日以内に受診歴のある患者さんでは「再受診」理由を確かめてください。

前回の受診理由が治癒し別のエピソードであれば初診料は算定できますが、不変・増悪の場合は一連の疾患として再診料となります。新たな傷病名が加わったとしても、同様の判断です。転帰の判断は医師の責務であり、十分な問診を必要とします。

(3) 疑い病名では治療（投薬、処置）はできません。

理由は不明ですが、「インフルエンザ疑い」で抗インフルエンザ薬の投与をしばしばみかけます。「気管支喘息疑い」での吸入療法などもあります。薬剤や処置の適応症を確定診断で記載してください。

(4) 超音波検査にはエコーで診断できる器質的疾患名（疑いを含む）が必要です。

急患診療所では腸重積、虫垂炎などの重篤な疾患に注意を要するため、日常診療よりエコー検査の頻度が高くなります。

「急性胃腸炎」では適応となりません。鑑別診断とした超音波検査で診断可能な傷病名（疑い）を必ず付けてください。

(5) 迅速法を行った場合には、ターゲットとなる病原体に関する傷病名が必要です。

インフルエンザ流行の時期などは患者数も多くなることから、カルテ記載の時間も十分取れないことが多いでしょう。しかし、インフルエンザ抗原定性を行えば、たとえ陰性であっても「インフルエンザ疑い」の傷病名は必要です。迅速法の種類も多く、それぞれ注意が必要です。同様に、他の検査や点滴、処置を行った症例でも、診察の最後に必ず病名欄と診療内容の整合性をご確認ください。

(6) 注射や点滴の適応病名を忘れずに付記してください。

救急医療では注射や点滴が行われる患者さんも少なくありません。嘔吐や脱水の存在が分かる病名があればいいのですが、「上気道炎」のみで点滴が行われている場合などは査定せざるをえません。

(7) 自院で査定を受けている診療行為は行わないでください。

適応外の薬剤の投与や処置を行うことは施設に迷惑をかけます。急患診療所であれば少々のごことは許されるということにはなりません。

保険診療メモ（つづき）

夜間・休日の急患診療所における診療について

医療機関の方へ；

(1) 疑義は医師が勤務している時間内に解決する努力をしてください。

不特定多数の患者さんを診療していますので、後日になってからは記憶がはっきりしません。看護師、薬剤師、事務などと協力し、疑問点があれば当日うちに解決するようにしてください。

(2) 提出前に常勤医や管理医師にレセプトの確認を受けてください。

提出前の医師によるレセプト点検は必須ですし、傷病名に関する疑義などは医師でなければ対応できません。

(3) 数日以内に来院歴のある患者さんの初診料算定には注意が必要です。

急患診療所を受診する患者さんのほとんどが初診料の対象です。しかし、患者さんからみると一連の疾患で数日以内に受診したにもかかわらず、また初診料を請求されることは会計の際にトラブルを生じます。自己負担がない患者さんの場合は保険者から疑義が来ます。前述の医師の転帰判定についての記載も参考にしてください。

(4) 地域連携小児夜間・休日診療料の複数回算定は限定的です。

少数ですが、同一日に複数回受診した場合、その都度上記加算を算定している施設があります。「原則として1回のみ」であり、「病態の度重なる変化」がなければ複数回は算定できません。「解熱しないため」、「咳で眠れなくなったため」などは適応とはなりません。納得のいく理由を「詳細に適応欄に記載」してください（青本320頁）。

(5) プラスチックカニューレ（留置針）の適応は限定的です。

これも限られた施設ですが、点滴のほとんどにプラスチックカニューレが算定されているところがあります。6歳未満のお子さんや重症の患者さん（転医、けいれん、ショック、アナフィラキシー、意識障害など）では認められますが、「急患診療所を受診した患者さんなので認められる」ことはありません。特定医療材料の主な適応でお確かめください。皮膚欠損用創傷被覆剤も適応外使用がしばしばみられますので注意が必要です。

（福岡県小児科審査員連絡会）

役員会報告（7月4日：木曜日）

協議事項・報告事項

- 1) 福岡県小児科医会役員会
7月6日（土曜日）福岡県小児科医会総会
久留米にて行われます。

委員会報告

1. 学術委員会報告：神菌淳司
8月はお休みです。
9月19日 例会は調整中です。
10月17日 予定：富山大学の種市先生に脳死関連
11月21日 調整中です。
12月19日 インフルエンザ（ゾフルーザ）関連を予定。
2. 予防接種・感染症委員会 報告：古村速
北九州地区小児科医会のホームページの「予防接種」、
「感染症」の項目の改訂を行いました。
古くなった箇所の修正や新しい情報などを追加しました。
一度、目を通していただければと思います。
3. 広報委員会 報告：富田一郎
子ども健康ニュースの63号、64号をHPに掲載しています。
その他、予防接種・感染症について委員会で話し合われた内容を更新しています。